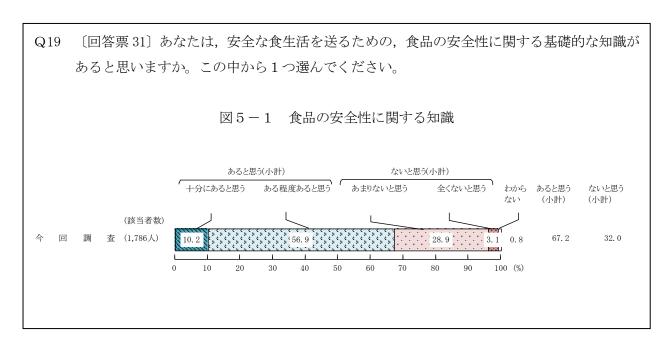
5 食品の安全性について

(1) 食品の安全性に関する知識

安全な食生活を送るための、食品の安全性に関する基礎的な知識があると思うか聞いたところ、『あると思う』と回答した人の割合が 67.2%(「十分にあると思う」10.2%+「ある程度あると思う」56.9%)、『ないと思う』と回答した人の割合が 32.0%(「あまりないと思う」28.9%+「全くないと思う」3.1%)となっている。(図 5-1)



食品の安全性に関する知識について、性別に見ると、『あると思う』と回答した人の割合は女性で高く、 『ないと思う』と回答した人の割合は男性で高くなっている。

性・年齢別に見ると、『あると思う』と答えた人の割合は女性の 60 歳代,70 歳以上で高く、『ないと思う』と答えた人の割合は男性の 30 歳代,40 歳代,女性の 20 歳代で高くなっている。

あると思う(小計) ないと思う(小計) 十分にあると思う ある程度あると思う あまりないと思う 全くないと思う わから あると思う ないと思う (該当者数) 〔全世代〕 56.9 数 (1,786人) 67. 2 32.0 28.9 3.1 0.8 性 (799人) 50. 4 61.0 38.0 34.7 : 3.4 1.0 性 (987人) 72.2 27.2 0.6 . . . 2. 9 〔若い世代(20~39歳)〕 数 (345人) 6. 1 50.4 0.3 53. 3 46.4 男性(20~39歳)(149人) 47.7 52.3 47. 0 5. 4 女性(20~39歳)(196人) 57.7 41.8 〔性·年齢別〕 53.4 [男性] 20~29歳 (58人) 56.9 43.1 2. 2 49. 5 30~39歳 (91人) 8.8 8.3 4.4 4.6 4.1 0.7 47.6 40~49歳 (145人) 51.7 36. 7 2. 5 50~59歳 (120人) 60.0 39.2 16.0 26.7 1.3 1.3 60~69歳 (150人) 70.7 28.0 55. 7 70歳以上 (235人) 23.0 1.7 71.9 26.4 39. 2 [女性] 20~29歳 (79人) 53. 2 45.6 1.3 32. 5 30~39歳 (117人) 6.8 60.7 39.3 40~49歳 (176人) 31.3 65.3 34.7 3.4 24. 3 . . . 1. 7 50~59歳 (177人) 5.6 0.6 73.4 26.0 60~69歳 (190人) 14. 2 65.8 19.5 80.0 20.0 17.7 हे है है है है है है है **64.** 1 है है 70歳以上 (248人) 14.1 2.4 81.9 16.5

図5-1-1 食品の安全性に関する知識

50

60

70

80

90

40

10

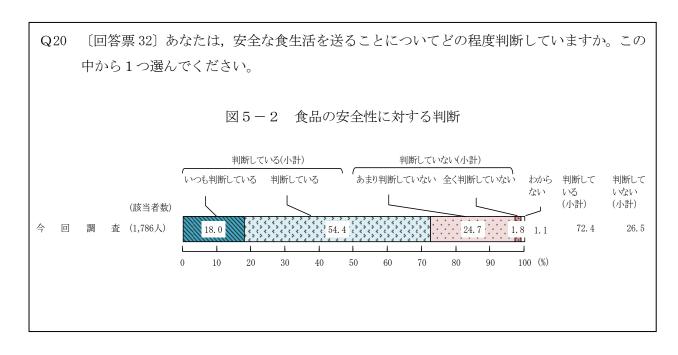
20

30

100 (%)

(2) 食品の安全性に対する判断

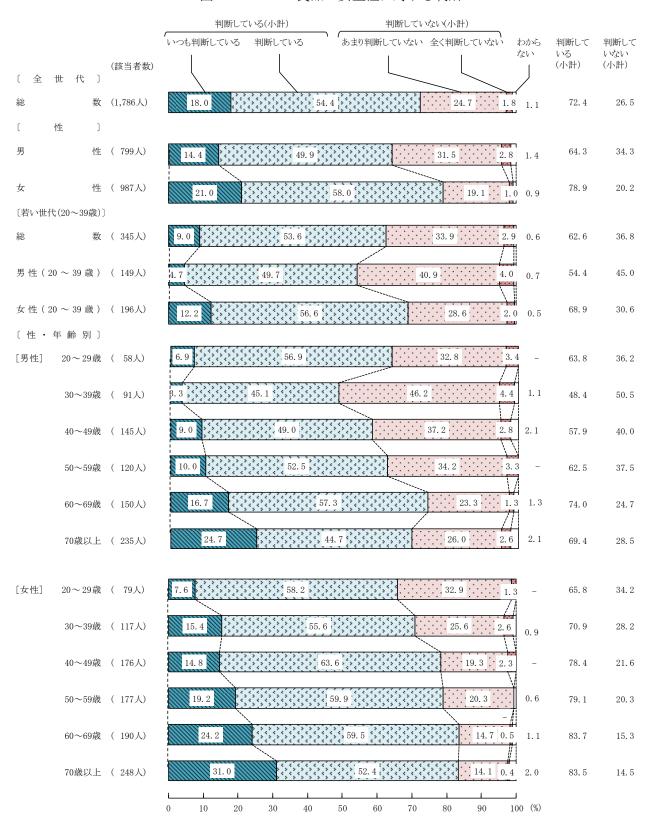
安全な食生活を送ることについてどの程度判断しているか聞いたところ,『判断している』と回答した人の割合が 72.4%(「いつも判断している」18.0%+「判断している」54.4%),『判断していない』と回答した人の割合が 26.5%(「あまり判断してない」24.7%+「全く判断していない」1.8%)となっている。(図 5-2)



食品の安全性について、性別に見ると、『判断している』と回答した人の割合は女性で高く、『判断していない』と回答した人の割合は男性で高くなっている。

性・年齢別に見ると、男性の30歳代から50歳代で『判断していない』と回答した人の割合が高くなっており、男性の30歳代では半数が『判断していない』と回答している。

図5-2-1 食品の安全性に対する判断



(3) 安全な食生活を送るための意識や判断

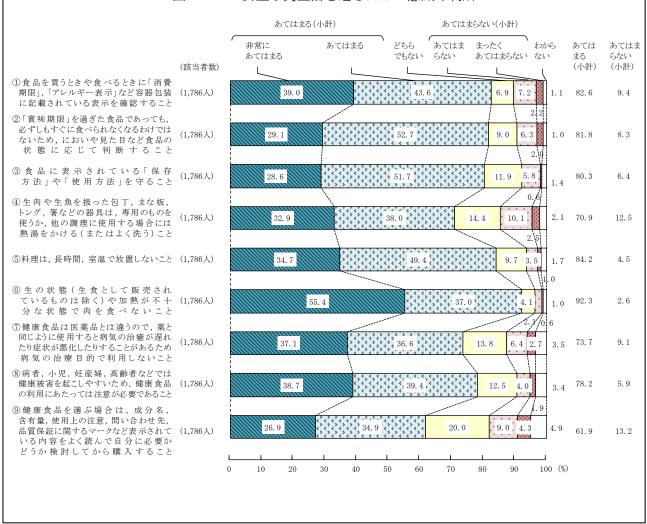
安全な食生活を送るためのポイントとして,9つの内容を挙げ,それぞれについて,どの程度意識し, 判断しているか聞いた。

『あてはまる』と回答した人の割合が最も高いのは、『⑥生の状態(生食用として販売されているものは除く)や加熱が不十分な状態で肉を食べないこと』(92.3%)で、続いて『⑤料理は、長時間、室温で放置しないこと』(84.2%)、『①食品を買うときや食べるときに「消費期限」、「アレルギー表示」など容器包装に記載されている表示を確認すること』(82.6%)、『②「賞味期限」を過ぎた食品であっても、必ずしもすぐに食べられなくなるわけではないため、においや見た目など食品の状態に応じて判断すること』(81.8%)、『③食品に表示されている「保存方法」や「使用方法」を守ること』(80.3%)、『⑧病者、小児、妊産婦、高齢者などでは健康被害を起こしやすいため、健康食品の利用にあたっては注意が必要であること』(78.2%)、『⑦健康食品は医薬品とは違うので、薬と同じように使用すると病気の治癒が遅れたり症状が悪化したりすることがあるため病気の治療目的で利用しないこと』(73.7%)、『④生肉や生魚を扱った包丁、まな板、トング、箸などの器具は、専用のものを使うか、他の調理に使用する場合には熱湯をかける(またはよく洗う)こと』(70.9%)、『⑨健康食品を選ぶ場合は、成分名、含有量、使用上の注意、問い合わせ先、品質保証に関するマークなど表示されている内容をよく読んで自分に必要かどうか検討してから購入すること』(61.9%)の順となっている。(図5-3)

項目別にみると、女性では8割が『④生肉や生魚を扱った包丁、まな板、トング、箸などの器具は、専用のものを使うか、他の調理に使用する場合には熱湯をかける(またはよく洗う)こと』について『あてはまる』と回答している一方、男性では5割強となっている。他のすべての項目においても、女性の方が『あてはまる』と回答する割合が高いが、男性との差は1割前後にとどまっている。

Q21 〔回答票 33〕あなたは、安全な食生活を送るためのポイントとして、以下の項目をどの程度 意識し、判断していますか。この中からそれぞれ1つずつ選んでください。

図5-3 安全な食生活を送るための意識や判断



容器包装に記載されている表示を確認することについて、性別に見ると、『あてはまる』と回答した人の割合は女性で高い。

性・世代間別に見ると、『あてはまる』と回答した人の割合は若い世代(20~39歳)の女性で高い。

性・年齢別に見ると、70歳以上の男性で『あてはまる』と回答した人の割合は7割を下回っている。

図 5-3-1 安全な食生活を送るための意識や判断 ①食品を買うときや食べるときに「消費期限」,「アレルギー表示」など

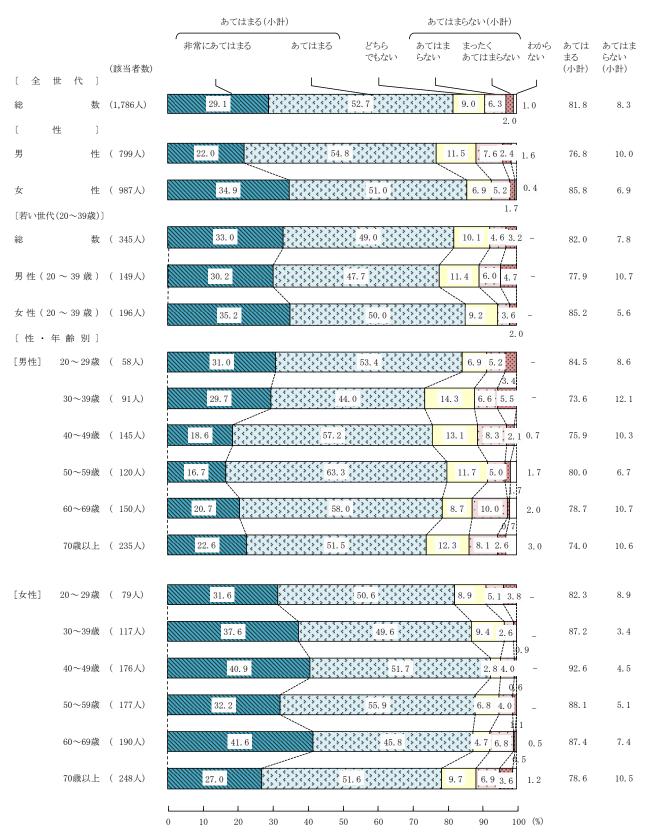
容器包装に記載されている表示を確認すること あてはまる(小計) あてはまらない(小計) **)** わから あては あてはま 非常にあてはまる あてはまる どちら あてはま まったく あてはまらない ない でもない らない まる らない (小計) (小計) (該当者数) 〔全世代〕 43. 6 6.9 7.22.2 1.1 39. 0 数 (1,786人) 82.6 9.4 性] 44. 1 性 (799人) 10.3 3.8 29.9 10.0 74.0 14.0 2.0 性 (987人) 89.6 5.7 46. 4 43. 2 4.54.7 0.3 [若い世代(20~39歳)] 42.3 39.7 7.2 2.6 -数 (345人) 82.0 9.9 43.6 男性(20~39歳)(149人) 30. 2 12. 1 8.7 14.1 5. 4 女性(20~39歳)(196人) 88.3 6.6 41.3 46. 9 5. 1 6. 1 [性·年齢別] 0.5 46.6 [男性] 20~29歳 (58人) 29.3 10.3 8.6 5.2 75.9 13.8 30~39歳 (91人) 30.8 13.2 8.8 5.5 72.5 14.3 40~49歳 (145人) 29.7 13.8 50.8 32. 5 5.8 1.7 1.7 7.5 50~59歳 (120人) 83.3 7.5 60~69歳 (150人) 28.7 2.7 14.0 35. 7 13. 2 29.4 12.3 5.1 70歳以上 (235人) 65.1 17.4 7.6 8.9 [女性] 20~29歳 (79人) 41.8 82.3 10.1 41.9 30~39歳 (117人) 50.4 92.3 4.3 48. 3 40~49歳 (176人) 46.0 94.3 4.0 50~59歳 (177人) 50.8 2.83.4 93.2 4.0 0.6 60~69歳 (190人) 49.5 94.2 4.7 4.2 40.3 70歳以上 (248人) 40.79.7 5.62.4 1.2 81.0 8.1 10 20 30 50 60 70 80 100 (%)

-81-

においや見た目など食品の状態に応じて判断することについて、性別に見ると、『あてはまる』と回答 した人の割合は女性で高い。

図5-3-2 安全な食生活を送るための意識や判断

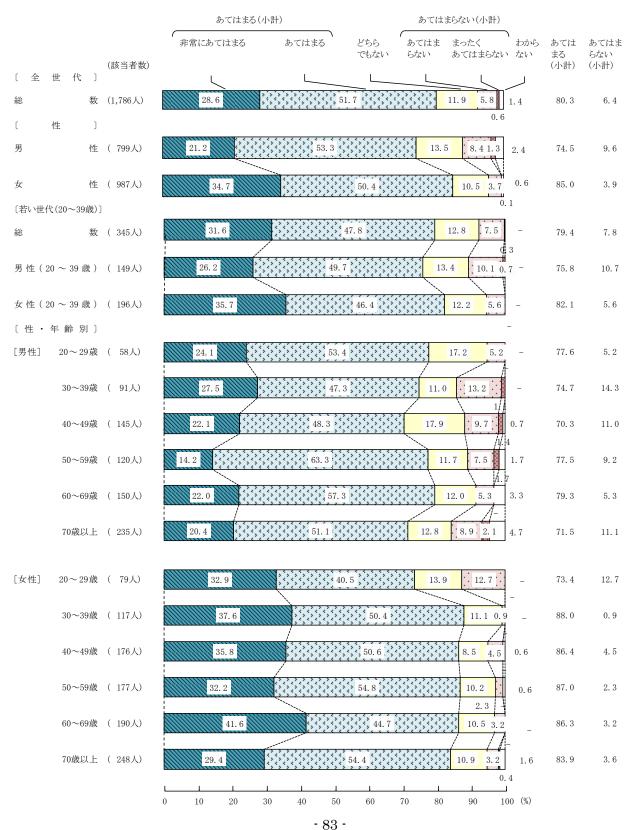
②「賞味期限」を過ぎた食品であっても、必ずしもすぐに食べられなくなるわけではないため、においや見た目など食品の状態に応じて判断すること



食品に表示されている「保存方法」や「使用方法」を守ることについて、性別に見ると、『あてはまる』 と回答した人の割合は女性で高い。

性・年齢別に見ると,30歳代,40歳代,70歳以上の男性,20歳代の女性で1割以上が『あてはまらない』と回答している。

図5-3-3 安全な食生活を送るための意識や判断 ③食品に表示されている「保存方法」や「使用方法」を守ること



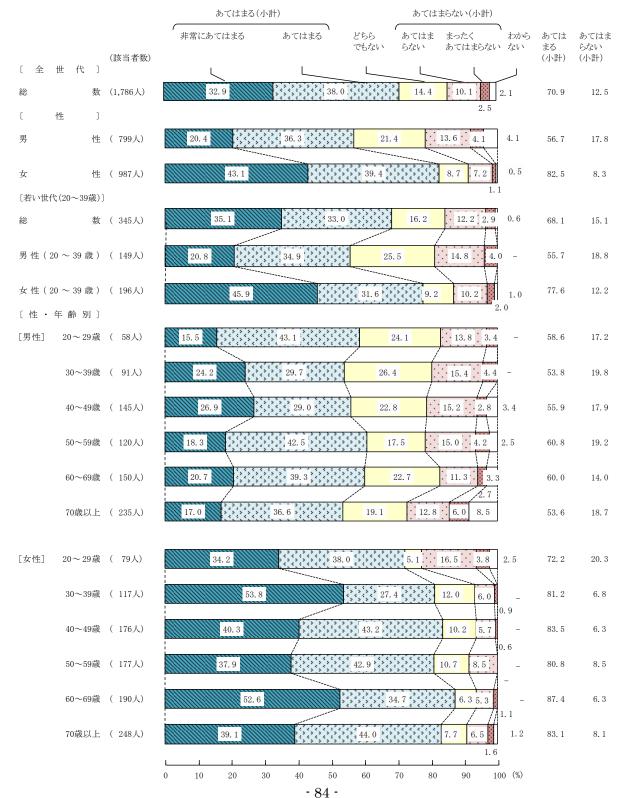
生肉や生魚を扱った器具は、専用のものを使うか、他の調理に使用する場合には熱湯をかける(またはよく洗う)ことについて、性別に見ると、『あてはまる』と回答した人の割合は女性で高い。

性・年齢別に見ると、女性の30歳代以上では『あてはまらない』と回答した人の割合は1割を下回っているが、女性の20歳代では2割が『あてはまらない』と回答している。

図5-3-4 安全な食生活を送るための意識や判断

④生肉や生魚を扱った包丁, まな板, トング, 箸などの器具は, 専用のものを使うか,

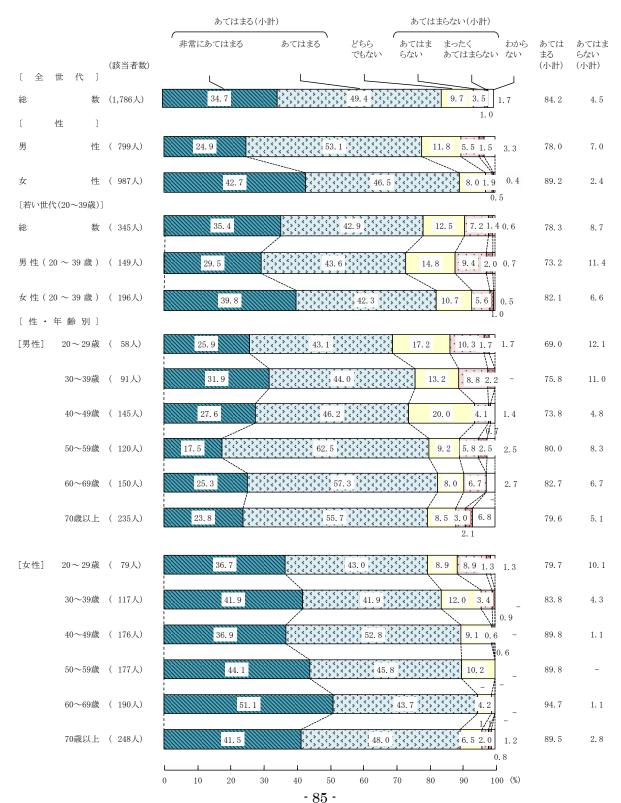
他の調理に使用する場合には熱湯をかける(またはよく洗う)こと



料理は、長時間、室温で放置しないことについて、性別に見ると、『あてはまる』と回答した人の割合は女性で高い。

性・年齢別に見ると、20歳代と30歳代の男性、20歳代の女性では『あてはまらない』と回答した人の割合が1割台となっている。

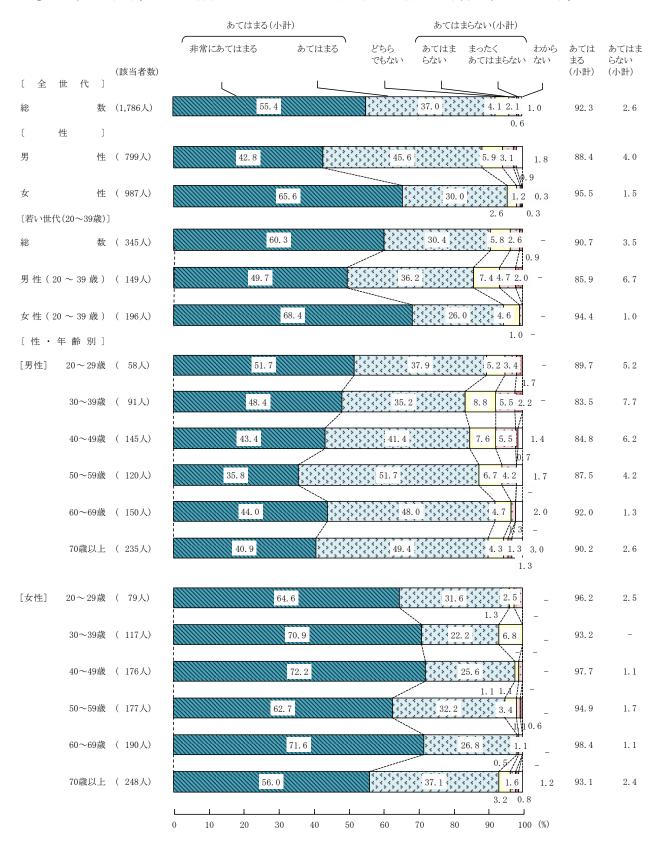
図5-3-5 安全な食生活を送るための意識や判断 ⑤料理は、長時間、室温で放置しないこと



生の状態(生食用として販売されているものは除く)や加熱が不十分な状態で肉を食べないことについて、性別に見ると、『あてはまる』と回答した人の割合は女性で高く、9割以上となっている。

図5-3-6 安全な食生活を送るための意識や判断

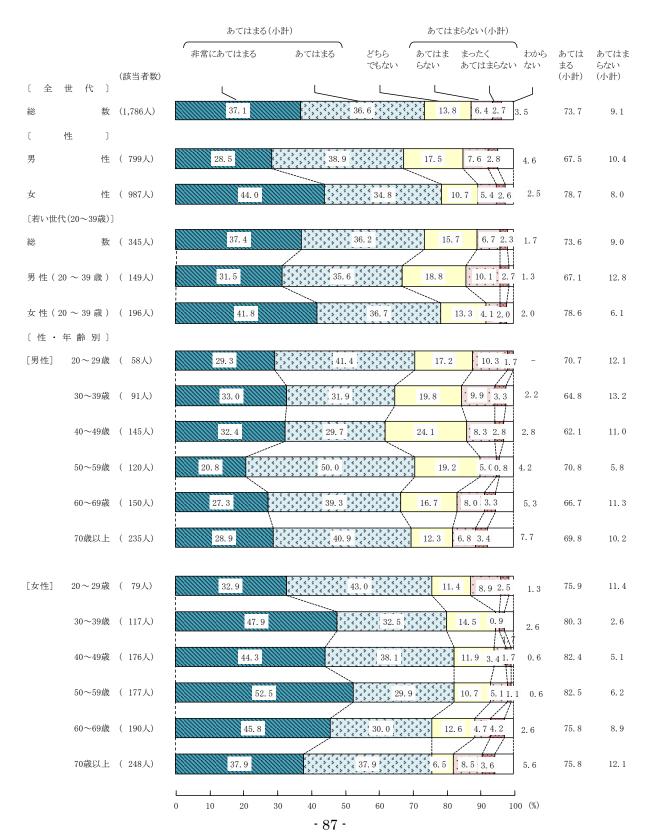
⑥生の状態(生食用として販売されているものは除く)や加熱が不十分な状態で肉を食べないこと



健康食品を病気の治療目的で利用しないことについて、性別に見ると、大きな差異は見られず、『あてはまる』と回答した人の割合は女性で8割弱、男性で7割弱となっている。

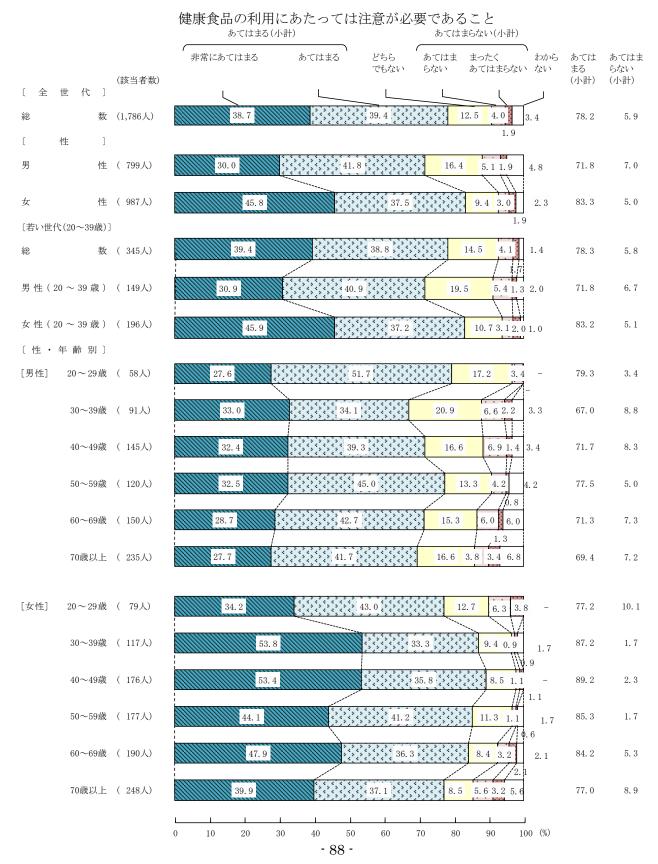
性・世代間別に見ると、大きな差異は見られない。

図5-3-7 安全な食生活を送るための意識や判断 ⑦健康食品は医薬品とは違うので、薬と同じように使用すると病気の治癒が遅れたり 症状が悪化したりすることがあるため病気の治療目的で利用しないこと



病者,小児,妊産婦,高齢者などでは健康被害を起こしやすいため,健康食品の利用にあたっては注意が必要であると意識し判断していることについて,性別に見ると,『あてはまる』と回答した人の割合は女性で約8割,男性で約7割となっている。

図5-3-8 安全な食生活を送るための意識や判断 ⑧病者,小児,妊産婦、高齢者などでは健康被害を起こしやすいため、

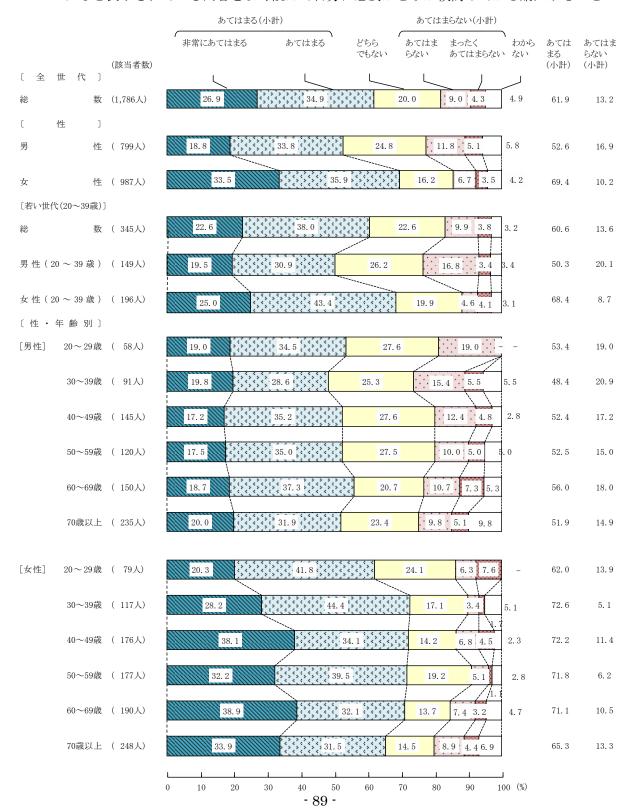


健康食品を選ぶ場合は、表示されている内容をよく読んで自分に必要かどうか検討してから購入する ことについて、性別に見ると、『あてはまる』と回答した人の割合は女性で高い。

性・世代間別に見ると、『あてはまる』と回答した人の割合は若い世代(20~39歳)の女性で高く、『あてはまらない』と回答した人の割合は若い世代(20~39歳)の男性で高くなっている。

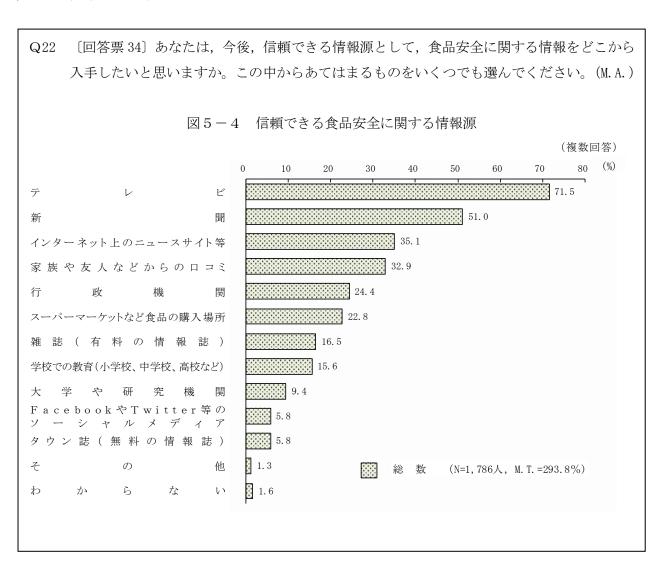
図5-3-9 安全な食生活を送るための意識や判断

⑨健康食品を選ぶ場合は、成分名、含有量、使用上の注意、問い合わせ先、品質保証に関する マークなど表示されている内容をよく読んで自分に必要かどうか検討してから購入すること



(4) 信頼できる食品安全に関する情報源

今後、信頼できる情報源として、食品安全に関する情報をどこから入手したいと思うか聞いたところ、「テレビ」を挙げた人の割合が 71.5%と最も高く、以下、「新聞」(51.0%)、「インターネット上のニュースサイト等」(35.1%)、「家族や友人などからの口コミ」(32.9%)の順となっている。(複数回答、上位 4 項目)(図 5-4)



信頼できる食品安全に関する情報源について、性別に見ると、「家族や友人などからの口コミ」、「スーパーマーケットなど食品の購入場所」を挙げた人の割合は女性で高くなっている。

世代間別に見ると、「インターネット上のニュースサイト等」、「FacebookやTwitter等のソーシャルメディア」を挙げた人の割合は若い世代($20\sim39$ 歳)で高い。

表5-4 信頼できる食品安全に関する情報源

																	(*	复数回答)
				該	テ	新	ニイ	口家	行	食スー	雑	中学	大	ソTF	~ <i>9</i>	そ	わ	
				当			ュン	族や友	政	品パーのマ	誌(有	学校、教	学 や	lwa シic ヤte	無料ウ	***************************************	カュ	
				± r -	V		ス ネ サッ	人 っな ど	166	購した	料の性	高育 校(研究	ルtb メeo	情	Ø	6	計 (M. T.)
				者			イ _ト ト上	から	機	入ッ 場な	情報誌	小 な 学 ど 校	機	ディo イ等k	報 ン 誌		な	
				数	Ľ	聞	等の	ミの	関	所ど	Ü	Ų '̇́`	関	アのや	一誌	他	W	
				人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
〔全	#	±	代〕															
総	性	:	数]	1, 786	71.5	51.0	35. 1	32.9	24. 4	22.8	16. 5	15. 6	9. 4	5.8	5.8	1. 3	1.6	293.8
男	12	•	性	799	69.6	52. 2	36. 2	26.8	26. 5	17. 4	14.6	12.9	9. 5	6.6	5. 1	1. 1	2.5	281.1
女			性	987	73.0	50.1	34. 1	37.9	22.7	27. 3	17.9	17.8	9.3	5. 2	6.4	1.5	0.9	304. 2
〔若い世	t代 (:	20~39	歳)〕															
総			数	345	60.9	24. 1	57. 1	34.2	27.0	33. 9	12.8	28.7	15. 1	17.1	3. 5	0.6	0.9	315.7
男 性		\sim 39 $\bar{\imath}$		149	57.7	23. 5	57.0	28. 2	26.8	25. 5	12.8	20.8	15.4	20.8	4.7	-	2.0	295.3
女性	(20	\sim 39 $\bar{\imath}$		196	63.3	24. 5	57. 1	38.8	27.0	40.3	12.8	34. 7	14.8	14.3	2.6	1.0	-	331.1
〔 性	•	年	齢〕															
(男	性)															
20	\sim	29	歳	58	60.3	22. 4	58. 6	29.3	24. 1	27.6	15.5	25. 9	12. 1	17.2	1.7	-	1.7	296.6
30	\sim	39	歳	91	56.0	24. 2	56. 0	27.5	28.6	24. 2	11.0	17.6	17. 6	23. 1	6.6	_	2.2	294.5
40	\sim	49	歳	145	60.7	47.6	55. 9	27.6	36. 6	17. 9	14.5	26. 9	13. 8	6. 2	6. 9	2. 1	2. 1	318.6
50	\sim	59	歳	120	73. 3	50.8	50. 8	25.8	34. 2	20.8	25.0	13. 3	12. 5	7. 5	5.8	1. 7	1.7	323. 3
60	~	69	歳	150	70.7	58. 0	26. 0	29.3	30. 7	17. 3	15.3	7. 3	8. 0	0.7	4. 7	1. 3	2.7	272.0
70	歳	以	上	235	80.0	70. 2	9.8	24.3	13.6	10. 2	10.2	2.6	2.6	1.3	4.3	0.9	3.4	233. 2
(女	性)															
20	\sim	29	歳	79	72. 2	21.5	54. 4	43.0	15. 2	46. 8	5. 1	24. 1	13. 9	19.0			-	315. 2
30	\sim	39	歳	117	57. 3	26. 5	59. 0	35. 9	35. 0	35. 9	17.9	41.9	15. 4	11.1	4. 3	1. 7		341.9
40	\sim	49	歳	176	65. 9	44. 3	54. 0	36. 4	27. 8	33. 5	18. 2	36. 4	13. 6	6.8	8. 5	1. 1	0.6	347. 2
50	\sim	59	歳	177	73. 4	55. 9	42. 9	37.9	27. 7	24. 9	21.5	11.9	14. 7	3.4	7. 9	1. 7		323. 7
60	~	69	歳	190	81.1	61.6	21. 1	40.0	25. 8	26. 8	21.1	8.9	4. 2	2.6	7. 9	1.6	0.5	303. 2
70	歳	以	上	248	79. 4	61. 3	5. 6	36. 7	9.7	14. 5	16. 9	2. 4	2. 0	_	5. 6	2. 0	2.8	239. 1